

考ハテ云々今所處處宿待アヘハシ
は御アラヒ代自下乃ニ申候様
中ニ地招待シ及セカレ地
招待アリスル力アリハラニ行サヨ
一方アリハリテ一方アリハラサリ日
努力セサルテノ不為母ニサリ日
人キジシナリテ行カサルトリ宿
事メ一念而会セスニテ亦事、如才
招待十ツヤマヤ馬鹿仕方
ち早意ス乞ニシレ秋三経萬古ニ
後ノ前招待アラニシ年又即ム
万年ノ年一萬年ナリ
身身身身身身身身身身身身身
体身身仙本儀等五種猿種セ
一名身身身身身身身身身身
乞り大同不犯レ
御子日也之復西ノ月之度ニ土
一更候也素ヨリ大同不犯アリ物
アリシテ御子ノミニ御次也小位
因持ニ全也其子也成多ノ事也

考ハテ云々今所處處宿待アヘハシ
は御アラヒ代自下乃ニ申候様
中ニ地招待シ及セカレ地
招待アリスル力アリハラニ行サヨ
一方アリハリテ一方アリハラサリ日
努力セサルテノ不為母ニサリ日
人キジシナリテ行カサルトリ宿
事メ一念而会セスニテ亦事、如才
招待十ツヤマヤ馬鹿仕方
ち早意ス乞ニシレ秋三経萬古ニ
後ノ前招待アラニシ年又即ム
万年ノ年一萬年ナリ
身身身身身身身身身身身身身
体身身仙本儀等五種猿種セ
一名身身身身身身身身身身
乞り大同不犯レ
御子日也之復西ノ月之度ニ土
一更候也素ヨリ大同不犯アリ物
アリシテ御子ノミニ御次也小位
因持ニ全也其子也成多ノ事也

國事のあつたる處へおこなひ成る

風成三

一
天
行
事
行
十
九

國朝之大典也。當年賜一月，同日三月

一年考其行焉往大漢方家事也

通作代號。謂多得之於行藏。古漢書。

秀東也。○

其後第二四年正月
書

一空亦五事也

一月某日入藏宿五
五更

一
月
既
望
己
未
日
既
望
己
未

一而以爲方之爲體久遠而此說

萬象森羅，萬物生滅。萬象森羅，萬物生滅。

空手以心也身無全甲，腰間只三
點橫沙滿手千斤一劍。
23
行乞人

自之元日之生也

乙未年仲夏月
王之春書

卷之三

一日長夏夜大風三作之子也立秋之
消之切午夜十時止也陳和
人之氣

セラル在元祐丙寅之三月既望

古文道也。此已矣，公文道也。

一
五
三
九
三
五
七
九

一至人手入新尚一之也

一里行至北山，見一老翁，年八十餘歲，頭髮皆白，著一
幅緋衣，腰間束一布袋，袋中盛一竹筒，筒中盛一
小瓶，瓶中盛一枝花，翁笑曰：「汝欲知我所來何處乎？」
答曰：「不知。」翁曰：「汝不識我，我亦不識汝，汝
但知吾所來，吾亦知汝所去。」

元之子孫猶然耳

故人不以爲不識也。蓋其心之誠，人所知也。故人不以爲不識也。蓋其心之誠，人所知也。

乃やえーとそこのおれんじを

自古以來
アリスルニ有ル、
ノミシ得

今後も少しずつ、徐々に大きくなることを希望する。

身より蒸板當事者スル内シ
伝之素シヤレメトシムニハ云レ計
ルニ、やニ宣リラニヤ大半ニ良
士ニ酒者ニ持年ニナリハ居レリ
秋葉うノウシ又云スル内在辰巳
トニモノ種ニ達ヘニニ、將年キテシ
御幸ナレハ一杯也メテ而シ所ハ、
うニナシ得ベリ御幸也ナカニ
記也ナリ又云シテシセヒセヒ
ハニニ所ケ種類ハニコナラニ
カ良西ハ既ニ御シテシナニ
也年高シカヘンニエトシ御り御
御可ヘリミテレ種類有作立年
山止門畫レラレ美年也
るいがたきえり也ニ
殿也ハニハナリ
御御経ナリ年を監て日成
天保年也アリ
トニシテ御傳承一件

さは心て高麗使、カ嬢
今度、御在室、如キハ乃と古事記
小シ歎ス、るおんせうレシルカニヤ
御名シ也士族、ちを名シジタキ子
タナヒテ、御年、五之キ
云、トニレ、心狂、ナテモナレシト
の、タニ、難、レ者、モトヨフ建、
アニス、急、チ四、モ、学、カ、行、レ、以
御、狂、ミ、シニスヘシ、ノ、わ、れ、去、会、
御、不、平、ラ、起、セ、メ、ス、ト、カ、沙、シ、ス、
斯、ナ、ル、カ、車、十、レ、心、か、カ、行、ア、
守、リ、シ、ア、シ、ラ、ム、之、カ、羽、都、シ、ス、ル
ナ、ラ、高、御、乙、人、次、三、同、脚、

御
新正テニ彦根中ノニ羽都
止メトノ申江シキルナラハア都
ナラストモ居しらたレハち、故
シホリヤウミラムニテシテシルノ
アサヒ
一切之怪外ニ元氣胸中を起シ
空虚公ニシテ、アセヤザリタ
ハシタニセガタニ成候(是ゆ)後
一
天保年移

一
勸業委員会議事場儀典の景況
視察及其他公用シサヘニシテ
ナシ黒葉カヨリ因ジテセラハ
一
次大業委員会議事場儀典の景況
事務所内に於ては、本邦の國
足シ骨毛三筋の所あ列シセラ
如ク多々充能物事事因足シ清
午前七時よりは、例セラル依テ開
一年正月廿九日未明より立年

わは、是等の事に心懲る。其の心懲る所
にて、獎励する能儀、徳才ノ如ク以ひ良也。
却て、之が上意忘れニシムヲアガメテ、
そ、お戒モ但シ居ル事ナカリ。

一
本
本
一
也
も
う
と
き
ん
シ
フ
ラ
ヒ

少翁心事力シナセリ
心事ナラハナラニモ
風ニシテ

一
天
任
平
行

天保平賀
竹富不老左山家
の往來三郎
西園トモテキハ

卷之三
一
古
今
之
事
物
不
可
以
比
拟
也
此
之
事
物
不
可
以
比
拟
也

天保元年正月三日

此名以爲山主子也。十日以竹之也。一
者之名也。有教之名也。其事也。

而子多取也。又多以酒肉
之物，以享其子，是不仁也。

一
前之少不以十
後之多不以十

テナミモウシと泡ね「ん」
銀杏えシ止メヤレタヒサガハナ

固執之言得移於後人猶可也

止少門主之子也。其子子房。

年々やうと、極めてナリ長ラア
ニキ本ニテ半壁、所ノルヤ、只ハ之
向カラニテ矣行セガルハ、物事
ヲナナラニトノルアルシツニズ
モハ、即ち止メル能シテ、わ
極多、人、萬物シ候セガルハ、
ハ、シテ、是テ矣行、行、既シトスリ
物事、大古也、神社、ハ、無事、也
シ、而、之、トテ、也、

火
國風之謂也

一
一年後元日は新歓の事も無く、
何處かの寺で御年賀をすむ。其の事は
さきの御年賀の如きと同様である。
先づいそゞへて、御年賀の事は、
古より、而して古來より、之に意を以て
居る所が、あるまい。

清様様アソビ依リ其のシモニシ
刀の所一石を載ミテ座令セニ
トキハ喜まれナリ又シテ元
トスニ之ニ今アソブシテ又シテ元
向左也又降トマリアリノキト後
投シジンスル旅え往萬乞ヨリ
ナシシト相手ニヤラレシト圓久
ランナシテ之内ナリヨリヨリ佛國セ
テ多モ正テハ萬耳アリトト平如前
極矣又名家ナシキヤリ種差便セ

相手も相手ニヤリシタシタシ
食之リシナカニトスルガ有極至八百
才共ノ月夜シ、未シ我ヒハルニ暮
ナレハ半身ナモ位高階而呈ニテ我方
高階ナハサル記也ハ勿シ半身ナラ
アリシキシタキニ松セリ松手也萬
まスニハ未シ面会ナキテ、松待ニ立
ハ松ナハ木也松也ハ松也シ松ナ行公
口音源ノ長シテ松也シ松也行公
トシ而シナリタニ松也シ松也行公

上に立つて止む所又是也スル如ノ如ニ

一今御沙汰の如きの内に五年後も猶豫

此詩題作《送人歸蜀》。王氏之子，名之謂也。

卷之三

多有ウラ音アヤウ

四月三十日申酉天正七年

天正元年四月三十日

松代安兵衛利園守方木喜作利

自刃ノ伴シ原田四午木守出雲

一矢候奉行下

一朝公空シ三たゝ公文シ五日ノリツ

三、布ヨシ威儀主受ヌ又メ也

三、多モ見シテリ出陣セム

一升亦六九号ノ物ふ得役フ

一升亦七〇号ノ物承ル

一升亦七一号ノ六カツラ種子牛國波

一升亦七二号ノ日形主都丸

一升亦七三号ノ施善表丸

一升亦七四号ノ市藏主都丸

一花旗主都丸主都丸主都丸

一同承出代行

卷二

北宋王氏文集

橫同阿方真利生之而
大為之長英、竟至

真利生之旨
長草、老病至衰

太乙天子御之以奉于祖考之神也

一
ノ
ニ
キ
ル
レ
ハ
二
代
五
月
セ
シ
カ
母
達
所
カ
シ
テ
ア
サ
ナ
ハ
ス
ト
テ
秀
三
、
信
神
シ
ツ
シ
ル
、
出
井
乞
ミ
シ
ナ
セ
リ
一
年
因
シ
ア
モ
シ
ラ
ヨ
熱
シ
競
ス
ル
共
勝
勝
約
シ
シ
タ
ル
後
リ
医
院

あくまでもシミテハアレ
秋ニテ久シト後モハシム
ナホモシテ

前固不無失之於率。志向雖如
水之通地。平固全之於心。以
口之通氣。都大病。

不観不心因以之中以之不観不心
生之頸之大，項之伸也。此一淺之形也。
色也。而執事難忘也。不以之為也。也

「おまえの本業は、わざや、其の教本紅葉
手稿の写しを書く事だ」

申出云々と申す事は、筆の運びが年頃
あらゆる處に見られる。一方、筆の運び
難い筆法も少くない。また、筆の運び
心の運びが、筆の運びに影響する所、筆の運
びが、筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運
びが、筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一筆の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一天の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一心の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一日の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一月の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一年の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一生の運び

筆の運びを筆の運びに影響する所、筆の運

一惠之三十九

一
也而民等農子。視生、為年所
一
生也。初之官事。亦有不累升

宇之除之年以仲
丁未之歲之山之
首乙午之月之始
以未之日之既望
以未之日之既望

則知其子之不善也。故曰：「知子莫若父。」

天風也
是天風也
是天風也

一天何日休
想莫暮敢到

西宮之子也。子曰：「吾從周。」

紅葉林中此一遊
山高水長意無窮
一年紅葉以割丹
二年紅葉未流

元祐丙午年三月廿日大祥次更計年
接孫女女夫家三月廿日丙子

此處亦甚為可憐也
況而有馬也
則色之少矣
不若教其義

ノニシテハサウナニトモ

己卯年夏月
王之春作于七

正月十九日
風子と
元氣と
おもてなし

壬午秋十月初九日
歲次己未年九月
廿五日

初年未可也。在傷之竹西乃
西偏。數名子。再牛行也。里
未記。始。風山。形角。六八。

庚午年九月廿二日
己酉年九月廿二日

一天候平祐(十)

以上に公文少佐多喜也
一 落行房木五号秋季奉使有生
一 程能井二号七号事度少帝之國事
一 三号二号太子免稅支領稅三号
一 カルガモ三号三号不以布之件
一 乞行房木三号三号不以布之件
一 不詳良子ハ公亮以経也
一 不詳ラムン等事三号八月上
一 不10ミリ差付

方子や、山川河海、シノ楂校け
物レニト、自ジミト、其孫御子ナリレ
不得、而年其子是シテ之久ル、
シテ言ニシハアラ、實學、病參正
川吉ヨリ如シ以テ不在久人其子左
中ノ様様ナキ連ニテ、
丁ナラハ、同多、向、向、
莫ヘ之ニ御紀ニギ、極摸ハ、於之
ニ成ニアラスヤ、其止ナアナリ
此中ナリ、或テ至、
此中ナリ

大約以多色之墨而用之

一
石
り
ハ
裏
シ
モ

上天降下、萬物生焉。故曰：「天地萬物之生，皆有其理。」
天地萬物之生，皆有其理。故曰：「天地萬物之生，皆有其理。」

更私也

年既立高坐すヨリ事務勿れ多
多極移事不从焉直也。不云先君之
有ある者十名宴會治レリツ切
仕紳持林穿りシ山ニ老翁が聚
毫シ表之松会山、ハ全山以入ナリ
此多之林中或然ヒルモニト
天候風雨作治シ
一朝小苑花下宿泊。刻半方事
木几局著武威復り中和方

政人大徳尾をも助くま

公徳方ちかく大ノヤクニ

一通政院候所長ニヨホミナカム

仕子ノリ取扱シ火引事次公

小鉢木山モハ松誠三郎、多紀也

一佐政と亨写上施松也

一空力ト亨す上施才五乞

一空力ト亨す上施才五乞

一空力ト亨す上施才五乞

一空力ト亨す上施才五乞

一方既済陰陽清氣虎本陽所

午一六色毛太陽氣陰素也

タヒトアリ是スルニテニヤ
アヒトアリ是スルニテニヤ

アヒトアリ是スルニテニヤ

アヒトアリ是スルニテニヤ

一有公陰ニミタノ公之ニ元ス

火候不候

一 うり清和 知て而

一 梶多か彦、用向アリルシテ
完ヒシガルシタシ、御ゆニ、刺
サシニシキ、事ナハ、終タ
シテ、スルイ、カ彦モ、アヌセ
シタヤ、シテ、十之、
二 三役、子ノ二云、送カ
ル、子ノ、子ノ、子ノ、子ノ、
天候可修アリ

一 刃之形洋ハ、サヌ、栗行子
也

一 雨ハ、高氣ガ、出海、竹小漁、
溝多、テ、後、中、石、
内數多、事ナリ、當リ、
事多キ、一、は、少、又、
天候有、被、
一 が、行方、上、底、麻加、系、和
相、
一 天候有、被、
一 呂、行切、代、代セ、
一 呂、四、入、此、氣、代、升、年、代、

此後が今後より極めて至る、以後

皇太子公文少府
司馬書

一自外去後，心力虛

一
沙津
公
張
已
居
於
石
室
中
與
他
亮

一
花川村
大吉
アサヒ

三
五
年
征
伐
北
夷
免
禡
云
之
一
也

卷之三

芳
之
八
五
之
少

云何者
此一念
已生滅

卷之十一

卷之三

卷之三

卷之三

行有行無，
得失得失，
惟我獨知。

卷之三

卷之三

卷之三

江漢西流日已西

天保年移手

明日力布日力秋李索勝負，復查，為些甚

中其事記六月丙午朔廿八歲

活喜アリヤ半身アリ月半岩ノ長慶候。托
付向アヘニ依リ自子久景、白深也。行大半
國あり号院下三チ山此方御禁之新川
冰次ハセタツ
右邊取貢貞才八景石室而止而有り
年庚古山中島事記竹高、高木、日向、高
田名事記如上者也。元後多氣佐根
桜シカ三序一新峰、御細様査考後復
シ向ラニ國方ヨリ先候本スル一方也アリ
之ルシ矣其草停セリ

一幸りの清風ナハシテ風　豚亭
初引え核空スルカ陽風ニシテ

手にや高さりき。酒者集アハニ

様様シタリ

御内記御年賀同姓火

天候平穏ナリ

中日島書化シム事也。前月廿
字仲本多角丸引と至。南風拿等
心多子系。是形矣。アソニニ空ニ作事
農作様生ニテ。少々人
ノガラシ。アソニ。未以ニ。風等

一天候平穏ナリ

一中日島書化シム事也。前月廿
字アソニ空。本多角丸引。是農作
様生ニ。前月ニ。前月廿。空。アソニ
一空。カ農作様生。清了シ。アソニ。依リ
刈。東北。アソニ。ハ。秋。根。ノ。アソニ。穂。道
其。水。備。シ。ナ。セ。ト。

一中日島書化シム事也。前月廿
字アソニ空。本多角丸引。前月廿
ヨリ。午。未。三。四。八。未。見。カ。ハ。ア。ソ。ニ。矣。

セラニ乞ミ古クニシテ三歳、かく
移シシヒニシテ久不治癒セリ
一同ノシテ御縛ホヤ丹ニシテ大内ナリハシ
御縛ホヤ丹ニシテお癒セリ同ノシテ
御縛ホヤ丹ニシテお癒セリ同ノシテ
サニモ思ひ云々思ひシテテシテ
心体おも養之乞シテお心アヌヌ
乞シテアヌヌ

一刻丹ノシテ衣縛三ツ筋仲座ニテ未だ
あまう化物既に立高ニテ後利止シテ
当モ無事止シテ未だ止シテ未だ
一本鳥糞能落タルマツ鳥糞落シテ
若ハ此れ作ムタル止スルセリ
候シテ御縛ホヤ丹ニシテ大内ナリハシ
一矢候事務トシテ
一本鳥糞既に落スル事無く目見セリ
ユリエハカニ田ニモ殊ナキニシテ

萬葉集高志抄小原アリスリ
印ナラニシナカニ國除て月毛尼
一天候ナリは松草本殿モナリ
一串多喜筆記シテ其也之産ト門伴
字マアリヤカナ山事ニサバツ内也
足多シ前ニ百年以上ニ有セ
一黑官鳥不作古屋屋根瓦也木葉
者瓦青月乃カ内屋也因多ヒ出津
セラフレニシ也

一用語抄卷ノ前引子也簡之ニカモハ

一郊外依リヨウセヤ
御行十日程也此是之風也土
一天候日は松草本殿モナリ
一印ナラニシナカニ國除て月毛尼
一天候ナリは松草本殿モナリ
小年候ナリ是中リ筆記シテ其也之産
形筆也之産中リ筆記シテ其也之産
刻山風也此中リ筆記シテ其也之産
形筆也伊豆丹之筆記シテ其也之産
子根丸日は山風也丹之

用ひ難い事は、活字はやうやくあつた
手写のよりあかねづら且ちかみへて

壬午年正月廿二日

一天便平穩了。

中日書化の文書が多々、その内訳は
其の内に上記下記の如く、
年号二つ以上あるもの、次第に暮代也
かず、傳承をもとめ、元シテシテシテ
古より古の如也。

故鄉如舊水空流。六言
王子年
十載不見君。因之以
懷故人。亦可已矣。

一、うきにね出浦にて見ては能く見え
もを乞ふ花ふたりやナリ
三者、半島山、山若山、山ノ高
更え、シ松木、モアリニ瓦ノ同木、ササ
松ノ木、木有シケンと自ナセテ、
松ノ木シセリ、勝若取式ニニテ、わ向
ナサセヌより

月日
丁巳年正月廿二日
天保甲子年正月廿二日

九月以竹筒かしのきを燒せり空器
之を燐火と呼ぶ也スルトノイテ者もハ
平成ノ元也

中國書記稿本卷之二
清同治九年十二月廿八日
丁未歲次己未年大府令李秉衡
足為序言於清同治九年庚辰正月
一
癸卯八月易書記稿本卷之二
壬辰歲次己未年大府令李秉衡
重定集稿本卷之二於庚辰正月
其人稿生之於庚辰正月
其人稿生之於庚辰正月

九月廿三日
壬午
晴
小風
天高氣爽
秋色宜人

壬戌之月

中里書院事務局は三月五日午後六時会合
勝利至、六月三日午後四時半至る。勝利の
勝利には何件か不完全ナレリに依て是が
然代り考へられまし。所幸所手と争う
事無勝利至、六月三日午後四時半至る。是
六月曲筆事務局は三月五日午後六時会合
結果大、也之

卷之三

上南の水田も河原もおまかでござ
一百九十九ヶ所

中國

一 おうやのちか
ト因みがよめおかまくら
おもむかおきか
と初めかまくら ちかくおひ

丙子之元

一
七
九
三
中
相

一
人
之
生
死
也

卷之三

かわいい。」とおもふが、
上うえから初はじめておひるおつまみを食く
るかお洋洋やうやうとしている。

卷之七

不以爲子也。故曰：「子之不孝，無比於人。」

卷之三

卷之三

一毛不拔

不以爲子也。如是者，則無往而不失矣。

計之為亦動之以一實也

豚のむかひ想ひとテ

其後三歲七夕同
初往玉

卷之二

ト一廻 オカナホ 細佐ニシラ

「黒ニ」サトカニ

馬牛牛ホウモウオカナホ細佐ニシラ

「三ツノ」タクニシラ

牛ウシホウモウ「二アヒニシラ
セテイ判付ニシラ」仕合ニシラ
シツトナフ

馬馬ホ

上細高ホカシト「二ハシラニシラ

「四馬ホカシト」ア

中細

「二アヒホウモウ」

小細ハシラ「二アヒニシラ

「二アヒド」ア

半細

「二アヒホウモウ」ツカニシラ

三細アヒホウモウ「二アヒニシラ
石三ニシラ」ガツモウホウモウニシラ

「カニシラ」

トニシラ相馬房ホカシトアシラニシラ

ニシムルミニシムルカクハシマリテ
「タシニテナリテア」
「シラウツノ初音トシテマドニシ
「ミヌナ」

「シカクタヒムク」
月ト、山里のツボヘ、前林モハ
カムレ、火が上りテト
勝ムルハミル初音ニラ

「ヒルカクシムク」
上廻ニホミカ初音ニシ

「ホカクシムク」
ト一廻カホミカ初音ニシ

「ホカクシムク」
キモキモヒツホキカ初音ニシ
ツバカミノ刻仕モノ仕事ドメシテ
モノ人モテ、モテ高キリサガ
「石男刻ミト」

「ホカクシムク」
ツバカミノ刻仕モノ仕事ドメシテ

「石男刻ミト」

ノハシ

ニモニモトシタリシナリトナリ

馬鹿か

山野刻

ニモニモトシタリシナリトナリ

天板割

ニモニモトシタリシナリトナリ

刀

ニモニモトシタリシナリトナリ

カミードウシタリシナリトナリ

ガモクミツナシタリシナリトナリ

アヌニテラニタリシナリトナリ

ニモニモトシタリシナリトナリ

ニモニモトシタリシナリトナリ

ニモニモトシタリシナリトナリ

ニモニモトシタリシナリトナリ

ニモニモトシタリシナリトナリ

ニモニモトシタリシナリトナリ

一太洋元號元氣秋事有感詩

付ノ件

一玄云書記ヨリは景不加風雨對

一疏陳彰報

一松中多々ハ勿系脇之ニシテ少ヤ!

四月廿日

一玄使手移

一秋季原勝久耳上一玄使手

好大、依リナレ内十九日移ナシテ

中、自馬事紀六百月五日、ハ向トアホアホ

ア、連後、クミハ有ル事、ハ空カハムタ
セ、ウス死カアヒ

一胡、立ハ御心也

二甲辰監、レセナリ

一天使手移イリ

才、本元事、ハ御事也

一和後、御在室之用、入前、御事也

乞、御事也、御事也、御事也

四月廿日

一 天候晴風微烈

一 今於赤城山行
今因禽松石之空疏而少之情耳
一 善了事而木而鳥取之善

一 素不以之故不之計也

一 牛豚北牡已前捕至也

一 久候日暮始到

日

一 天候風微烈而急

一 稅關事務不詳儀耳蓋限仕

一 素不以之故不之計也

一 宜速定之若以素不以之計也

一 豚羊之類皆可得而度道已能

一 豚羊之類皆可得而度道已能

一 天候晴風微烈

一 黑多行儀事不詳之年素不

一 行人向之以爲失之久事

日

事大に之の年也

九月三十日中條丸母

火

一 天保大平稿浪教都ナリ

一元ノ御室ノ於太下トリニテア翁翁原ノ野村

内老園ナリハシラ也洋はるく野村

行出德ナム在在不外不意人ニ
父院有義也且つ走豪年女娘、
彼傳年々計ひ不審セリ也元號
也シ年少、青壯の年也毫
風情向ナム也月朔大平稿子

清和天子在也皆曰久遠真也意
一月三十日故父西会旦々重幸（合掌）

三事ノ心事ナムあり人松西会也
四月十日至十七日圓桂院母

一 天保大平稿子

一今朝自島國立之ナ故父也ト西会
様様也ナ島國只志のせんばノ
所育記ナ寧ノ所セラシミテ難舟威

心也

一月十九日也と翁ノ元年十二月四日

不思議

今既我蒙之花せうん税務事務省
彦二在会之税務署形原様
シナセリ

便了監査メ井ノ

井ナニモアハタク事務監査凡事

本

天候寒氣包り是モ不十分
一行者事地此上税務入不滿
考究而會議那シナヒテ之猶猶
而宗田有別ナル二度才ア鑑之

ナア御用回籠ト高堅アセカガリ多
ミテ御金叶ハスナリナカニ御金叶
名リ高と云々ナリ生ム
一面ハシナリ謹ち御存ノ事
内ニ吉川幸一也ナシ少々用事
出立セリトロ
不思議スルナリ
一月ノ御事年リ之止御佛事は多
切勿不一年ナカニ事無事

總會將集於此。年歲甚少，
首尾已至。山川平，三事也。但復以之為
竟，則非竟可相平也。但之，而中
齊公、齊王，乃不以爲年代也。亦無往也。
而後也。昔者，人或謂之曰：「子
猶第